

## 精神科領域専門医研修プログラム

■専門研修プログラム名:山口大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■プログラム担当者氏名: 中川 伸

住 所: 〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1

電話番号: 0836-22-2255

F A X: 0836-22-2253

E-mail: [seisin@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:seisin@yamaguchi-u.ac.jp)

■専攻医の募集人数:10 人

■応募方法: 履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先: 〒755-8505 山口県宇部市南小串 1-1-1

医局長 松原 敏郎

TEL: 0836-22-2255

FAX: 0836-22-2253

■採用判定方法:

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

## 専門研修の理念と使命

### 1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

### 2. 使命(全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

### 3. 専門研修プログラムの特徴

専門研修基幹施設となる山口大学医学部附属病院は、山口県内唯一の精神科病床（開放・閉鎖）を有する総合病院である。院内リエゾンも活発に行い、他診療科との連携も密である。そのため、当科には精神疾患初発例にくわえ、難治例、診断困難例、器質性・症状性精神障害症例、摂食障害などの身体合併症および自殺企図後などの精神科救急症例の紹介が院内外より多い。それらに対応すべく、通常の検査設備にくわえ、光トポグラフィー装置、修正電気けいれん療法設備、高圧酸素療法設備などが揃い、クロザピン使用施設にも認定されている。さらに臨床心理士による認知療法を含む精神療法、精神科リハビリテーションとしての作業療法も積極的に行っている。病棟は43床の開放病棟、閉鎖病棟と隔離室2床があり、多様な症例に対応できる環境にある。当科では指導医3～4名と専攻医数名からなる3つの臨床グループで病棟治療を行っている。専攻医は入院患者の担当医となり、指導医からの直接指導のみならず毎週行われる臨床グループカンファレンス、全体カンファレンス、多職種カンファレンス、診療科長による病棟回診、症例検討会、数多くのクルズスを通して、ほとんどの種類の精神疾患症例を診ることができ、かつその生物学的・心理学的検査・治療の基礎を学ぶことができる。

また、連携施設で公的単科精神科病院である山口県立こころの医療センターでは、医療観察法や精神鑑定などの司法精神医学を学ぶことができ、隣県福岡県の連携施設である九州大学病院精神科では、山口県と異なる地域での精神

科医療を学ぶことができる。さらに、山口県内の、2つの総合病院精神科および依存症医療、地域医療、認知症や児童・思春期医療に力を入れている特徴ある13の精神科病院も連携施設となっているので、専攻医はそれらに施設で幅広い精神科医療を経験し、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。

当科は山口大学大学院高次脳機能病態学講座として①遺伝子・生化学グループ、②認知機能・画像グループ、③疫学・治療グループの3つの基礎・臨床研究グループにおいて、主に統合失調症、気分障害、児童・思春期精神障害を対象として研究を行っている。専攻医は研修の一環として、また希望によっては大学院に入学して、このような研究活動に参加し、科学的思考を身につけることができる。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. 連携施設名と各施設の特徴

#### A 研修基幹施設

##### ① 施設名： 山口大学医学部附属病院

- ・ 施設形態： 公的総合病院
- ・ 院長名： 杉野 法広
- ・ プログラム統括責任者氏名： 中川 伸
- ・ 指導責任者氏名： 中川 伸
- ・ 指導医人数:(9)人
- ・ 精神科病床数:(43)床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	237	17
F1	15	3
F2	294	53
F3	400	35

F4 F50	747	81
F4 F7 F8 F9 F50	90	4
F6	41	6
その他	30	2

・ 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

720 床を有する大規模な総合病院であり、山口県内では唯一、開放病棟および閉鎖病棟の精神科病床を有する総合病院であることから、身体合併症や周産期精神障害、症状性精神障害（F0）を多く受け入れている。また、高度専門医療機関として、主に診断困難例、難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）や摂食障害（F5）などの治療にあたっている当院はがん診療連携拠点病院であり、緩和ケアセンターが設置され、メンバーの一員として緩和医療に取り組み、精神腫瘍学を学ぶことができる。またリエゾンチームによる院内リエゾン診療ではせん妄など脳器質性障害（F0）や不眠、不安、抑うつを主訴とする神経症性障害（F4）など様々な症例に対応し、コンサルテーション・リエゾン精神医学を学ぶことができる。児童・思春期専門外来では専門心理士と協力して、発達障害などの症例（F8、9）の診断、心理療法・療育、親・学校への働きかけを総合的に行っている。以上のように、様々な精神疾患症例に対する精神科臨床を幅広く経験できる。

指導医 3～4 名と専攻医数名からなる 3つの臨床グループで病棟治療を行っている。専攻医は入院患者の担当医となり、指導医からの直接指導のみならず毎週行われる臨床グループカンファレンス、全体カンファレンス、多職種カンファレンス、診療科長による病棟回診、症例検討会、数多くのクルズスを経験できる。他にもリエゾン・コンサルテーション検討会、精神科臨床勉強会を毎週開催しているが、教室外の医師も参加しての「山口県脳とこころの研究会」が定期的で開催されている。

B 研修連携施設

① 国立病院機構 関門医療センター

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：林 弘人
- ・ 指導責任者氏名：若林 祐介
- ・ 指導医人数：（ 1 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 0 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	170	0
F1	11	0
F2	61	4
F3	44	2
F4 F50	255	5
F4 F7 F8 F9 F50	2	0
F6	27	1
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

400床を有する総合病院であり、身体合併症を併存する精神疾患やリエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験することができる。また救命救急センターを有しており、自殺企図などの救急症例を受け入れることも多く、近隣の精神科医療機関と連携して対応にあたっている。また緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神医学的ニーズに関して学び、治療経験を積むこともできる。

② 山口県立総合医療センター

- ・ 施設形態：公的総合病院
- ・ 院長名：武藤 正彦

- ・指導責任者氏名：芳原輝之
- ・指導医人数：（1）人
- ・精神科病床数：（0）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	236	2
F1	59	10
F2	62	0
F3	236	3
F4 F50	474	1
F4 F7 F8 F9 F50	59	1
F6	60	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

490床を有する総合病院であり、身体合併症を併存する精神疾患を中心に多彩な疾患、症例を経験することが可能である。精神科病床は有していないものの、身体科と協力し、身体合併症治療に加え、うつ病、統合失調症、思春期症例、自殺企図など精神科救急症例の初期対応などを含む多様な精神疾患の実践経験を積むことができる。また当院は認知症医療疾患センターも配備しており、神経内科、脳外科と連携し認知症の診断、治療、マネジメントについても実践的な経験を積むことが可能である。

③ 施設名：山口県立こころの医療センター

- ・施設形態：公的（地方独立行政法人）単科精神科病院
- ・院長名：兼行 浩史
- ・指導責任者氏名：兼行 浩史

- ・ 指導医人数：（ 7 ） 人
- ・ 精神科病床数：（ 180 ） 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	177	55
F1	47	34
F2	133	131
F3	159	104
F4 F50	287	43
F4 F7 F8 F9 F50	246	3
F6	10	5
その他	186	28

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当事者のご家族に質の高い医療を提供することを最優先とし、多職種による専門治療プログラムの充実や医療安全の推進をはかっている。特徴としては、2つの精神科救急入院棟（計81床）を運用し、急性期治療の体制を強化するとともに、県精神科救急情報センターにて県全域の精神科救急医療体制の向上に努めている。また、児童・思春期、認知症、高次脳機能障害、依存症等の専門外来を充実し、臨床心理センターや認知症疾患医療センター、高次脳機能障害支援センターを中心に関係機関との連携をすすめている。当院では8床の医療観察法専門入院棟も運用しており、司法精神医学の研修が可能である。

- ④ 施設名：医療法人愛命会 泉原病院
- ・ 施設形態： 民間単科精神科病院
  - ・ 院長名：大楽良和

- ・指導責任者氏名：大楽良和
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 264 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	238	151
F1	44	12
F2	661	241
F3	481	87
F4 F50	267	2
F4 F7 F8 F9 F50	313	21
F6	11	2
その他	4	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症，気分障害，症状・器質性精神障害，認知症などの精神科専門領域で，児童思春期から成人・老年期にわたる精神科臨床を対象としている。精神科救急，デイケア・デイナイトケア，支援センター，グループホームを含む幅広いステージの診療を経験することが出来る。知的障害を伴わない成人発達障害（自閉スペクトラム症）の集団精神療法や，症例数は多くないが性同一性障害，神経症・心身症圏の診療も可能である。認知症専門外来，不眠外来などもあり、幅広い研修が可能である。

⑤ 施設名：防府病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：水津 信之
- ・指導責任者氏名：水津 信之



- ・ 指導医人数：（ 4 ） 人
- ・ 精神科病床数：（ 160 ） 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	58	57
F1	6	2
F2	174	73
F3	30	5
F4 F50	33	2
F4 F7 F8 F9 F50	1	1
F6	3	2
その他	0	1

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

昭和 11 年創立の歴史ある精神科単科病院であり、精神一般病棟 46 床、精神療養病床 54 床、老人性認知症疾患治療病棟 60 床を有している。防府市内に総合病院精神科が 1 つ、精神科クリニックが 3 つあるため、受診する患者の多くは入院治療を必要とする可能性が高い患者であり、中でも統合失調症、認知症の患者が多くを占めている。また市内で唯一措置病床を有しているため、措置入院をはじめとする精神科の救急症例を受け入れることが多い。また併設する施設として「デイケア きわの苑」「社会復帰施設 きわの里」があり、社会復帰に向けた取り組みを行っている。退院した患者さんの会「あけぼの会」の支援も行っている。平成 20 年 4 月より「精神保健ボランティア養成講座」を立ち上げ、精神障害に対する地域への啓蒙活動を行い、精神障害への理解が得られることを目指している。

⑥ 施設名：恵愛会 柳井病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：中岡 清人
- ・指導責任者氏名：中岡 清人
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 298 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	124	73
F1	35	14
F2	435	248
F3	471	57
F4 F50	199	6
F4 F7 F8 F9 F50	84	0
F6	4	2
その他	65	9

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

昭和31年創立の歴史ある精神科単科病院であり、精神一般病棟（178床）、精神療養病棟（60床）、老人性認知症疾患治療病棟（60床）を有している。市内には総合病院精神科が1院、認知症疾患医療センターが1院、精神科クリニックが1院あり、当院と連携をとっている。特に受診する患者の多くは入院治療を必要とする可能性が高い患者であり、中でも統合失調症、気分障害、認知症の患者が多くを占めている。また市内で唯一措置病床を有しているため、措置入院をはじめとする精神科の救急症例を受け入れることが多い。最近では訪問看護にも力を入れ、年々その数も増えてきている。大規模デイケアでも1日平均40～50人の患者が利用

している。更に内科や小児神経発達外来も有しており、合併症をはじめ、小児から高齢者認知症まで治療が可能である。また併設する施設として宿泊型自立訓練施設「こすもす」があり、社会復帰に向けた取り組みを行っている。更にやない地域生活支援センターがあり、柳井圏域の計画相談支援や地域移行支援も行っている。そのため、精神障害者の予防から社会復帰、自立に至るまでの治療経過をみる研修が可能である。

⑦ 施設名：小郡まきはら病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：牧原 紀彦
- ・指導責任者氏名：西村 理
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（120 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	5	1
F1	3	1
F2	693	163
F3	312	50
F4 F50	389	42
F4 F7 F8 F9 F50	498	55
F6	24	2
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

昭和 63 年に創立した、思春期青年期の患者さんを中心に診療を行っている精神科医療機関である。創立者の故牧原浩は、日本家族研究・家族療法学会を創設した 1 人であるため、家族療法を含め、精神療法に力を入れている精神科病院でもある。また、新山口駅から徒歩 12 分という県下の交通の要所にあり、地域の精神科医療の役割を担うとともに、山口県内様々な地域から若年層の患者さんが受診をされる。入院施設（計 120 床）は県下でもっとも早く認可された急性期病床（インテンシブ病棟：60 床）と、一般病床（一般病棟：60 床）の二つに機能分化されている。さまざまな職種【医師、薬剤師、看護師をはじめとし、その他に臨床心理士（9 名）、精神保健福祉士（11 名）、作業療法士（8 名）等】がチームを組み、治療プログラムを作り、スタッフ間やスタッフ―患者間で対話を重ね、患者さんの早期回復に努めている（指導医には児童青年精神医学会 認定医がいる）。扱う疾患は、従来からの統合失調症圏や気分（感情）障害圏も多数を占めるが、発達障害圏及びその関連疾患の割合が他の医療機関に比べて多いことも特徴の一つである。特に発達障害圏の治療に関しては、チームを結成し、カンファレンスや勉強会を開き、治療に活かすことができるよう日々努めている。最近では、臨床心理士が中心となって看護師や精神保健福祉士と連携し「オープンダイアログ的手法」を治療の実践に取り入れている。さらに当院の特徴として、通院患者さんのための手厚いサポート体制がある。精神疾患を抱えていても、地域社会の中で「その人らしく生きていくこと」を根気強くサポートし続けること、このことが当院のポリシーであり、これらを実践するために、外来診療部門に以下の施設をもうけており、研修期間中にはそれらの施設の見学も可能である。

- ・中～大規模グループの『デイケア』
- ・小規模グループの『外来作業療法』
- ・患者の家に外向いてのサポートとして『訪問看護』
- ・独居生活、ならびに自宅で家族との生活を円滑にするための生活力を身につける『生活訓練施設【とまり木】』
- ・独居生活訓練の場としての『グループホーム【カーサ若草】』
- ・就労を目標として訓練を行う『就労支援施設【レストラン・フィオーレ】』

⑧ 施設名：片倉病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：高橋 幹治
- ・指導責任者氏名：高橋 幹治
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 229 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	114	67
F1	12	3
F2	339	196
F3	179	42
F4 F50	91	14
F4 F7 F8 F9 F50	36	7
F6	20	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

229床を有し、1つの一般病棟、3つ精神療養病棟、1つの認知症治療病棟で構成されている。急性期から慢性期にかけての統合失調症圏が多くを占めるが、気分(感情)障害圏、認知症、器質性精神障害といった多種多様な精神科疾患を経験することができる。山口県精神科救急システム中部輪番病院に参加しているため、精神科救急医療を経験することができる。その他、入院患者の作業療法、外来患者へは精神科デイケア、精神科デイナイトケア、社会生活技能訓練をおこなっているため多様な精神科リハビリテーション治療を学ぶことができる。また、生活支援部があり、退院支援、地域移行推進、訪問支援など地域の関係機関調整を図っているため、患者の生活支援や地域連携について学ぶことができる。職員教育について

も、教育統括部が運営し、医療安全対策、院内感染対策、包括的暴力防止プログラム、医薬品安全管理、接遇、医療倫理などの研修を受けることができる。

⑨ 施設名：医療法人 清和会 吉南病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：綿貫 俊夫
- ・指導責任者氏名：大賀 哲夫
- ・指導医人数：（6）人
- ・精神科病床数：（371）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	63	89
F1	27	8
F2	324	288
F3	122	35
F4 F50	65	5
F4 F7 F8 F9 F50	2	1
F6	5	1
その他	84	33

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴）

昭和31年創立の歴史ある精神科単科病院であり、山口市と防府市の境界に位置しており、入院施設は精神一般病棟81床、精神療養病床237床、老人性認知症疾患治療病棟50床の計371床を有している。山口市内に総合病院が3箇所、精神科クリニックが4箇所あり、防府市内には地域型認知症疾患センターである山口県立総合医療センターがあり、精神科クリニックが2箇所あり、それぞれ紹介を受けている。受診する患者の多

くは入院治療を必要とする可能性が高い患者であり、中でも統合失調症、認知症の患者が多く気分障害、物質依存など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患について症例をカバーしている。また県内で最大の措置指定病床を有しており、精神科救急輪番を毎週月曜日および隔月に1回、土日祭日に引き受けており、措置入院をはじめとする精神科の救急症例を診ることができる。医療観察法指定通院医療機関であり、この法律による通院中の患者が現在1名いる。精神科における一般的な疾患についての知識や基本的技能、薬物療法、行動制限の手順など基礎的な技能と法的な知識を学ぶことができる。また併設する施設としてグループホームや訪問看護ステーション、訪問介護事業所があり、社会復帰に向けた取り組みを行っている。デイケア・デイナイトケア、外来作業療法、断酒会等の退院した患者さんの会の支援も行っている。また、隣接地において、関連社会福祉法人の運営する救護施設、グループホーム、地域支援センター、通所授産事業所があり、研修期間中に見学することが可能である。

⑩ 施設名：高嶺病院

- ・施設携帯：民間精神科病院
- ・院長名：橋本 隆
- ・指導責任者指名：橋本 隆
- ・指導医人数：（2）人
- ・精神科病床数：（127）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	4
F1	466	198
F2	14	16
F3	36	0
F4 F50	262	0

F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	16	5
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神科単科127床の民間病院であり、開院当初よりアルコール依存症を中心に薬物依存症、病的賭博などの依存症（アディクション）を治療対象としている。入院や外来だけではなく、地域の断酒会やAAなどの自助グループと連携しながら依存症からの治療回復プログラムを有し、県内のみならず県外からも患者が集まっている。また依存症だけではなく、統合失調症、感情障害、認知症の治療もおこなっており、地域の精神科救急医療システムにも参加している。また内科などの合併症治療もおこなっている。最近ではネット・ゲーム依存症治療にも力を入れ始めた。依存症治療についての体系的な研修が可能である。

⑪ 施設名：三隅病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：國生 成司
- ・指導責任者：國生 成司
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 180 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	54	51
F1	29	26
F2	268	142
F3	167	38



F4 F50	138	16
F4 F7 F8 F9 F50	20	7
F6	10	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

山口県北部の過疎地に位置し、地域精神科医療を提供している唯一の病院である。乳幼児や児童思春期に始まり成年・壮年・高齢者すべての年代の精神科医療を提供している。訪問診療・訪問看護を積極的に行って在宅・地域での医療を大切にしている。社会福祉協議会・保健所など関連機関と顔の見える連携ができ、医療にとどまらず保健・福祉サービスなど一連の経験ができる。内科医と身体医療機器が充実しており身体合併症治療を多数経験できる。

⑫ 施設名：医療法人 光の会 重本病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：重本 拓
- ・指導責任者氏名：高松 範雄
- ・指導医人数：（4）人
- ・精神科病床数：（214）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	97	71
F1	24	11
F2	282	242
F3	206	70
F4 F50	88	9

F4 F7 F8 F9 F50	1	0
F6	5	5
その他	96	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴）

平成13年3月現在地に移転して新病院としてスタートした。「誠意をもって医療にあたろう 心病む人の痛みを理解しよう 心の和む雰囲気を作ろう」の病院理念と「患者本位の医療を実践する」の基本方針を掲げ、地域の精神科医療を担う専門病院とし十分な役割を果たせるよう努めている。地域の医療機関との連携、行政、福祉、教育および司法との関係が緊密になされており、急性期医療にも取り組んでいることから多くの症例との出会いがある。精神科医療の守備範囲は年々拡大し、統合失調症や躁うつ病に加えてストレス・不安障害、児童思春期の障害、高齢者の認知症等の多様な疾患がその対象となっている。また、精神障害者の社会復帰や地域生活支援にも早い時期から取り組んでおり、患者の外来治療、入院治療および社会復帰までの研修が可能である。

病院と付設施設の沿革

昭和03年09月 山口脳病院開設  
 昭和24年06月 重本病院へ改名  
 昭和46年04月 医療法人光の会設立  
 平成03年04月 社会復帰施設援護寮開設  
 平成13年03月 重本病院の新築移転開設（病床214）  
 平成13年04月 社会復帰施設地域生活支援センター・通所授産施設開設  
 平成15年05月 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定  
 平成23年04月 社会復帰施設の障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス事業所」等への事業変更

病院の医療および支援体制

【入院医療体制】

精神科急性期治療病棟が1（52床）、認知症治療病棟が1（54床）、重度の精神療養病棟が1（54床）、そしてリハビリ体制の精神療養病

棟が1（54床）と、4病棟各々に特徴を持った機能分化した病棟体制が取られており、全病棟が診療報酬上の特定入院料である包括制病棟として運営されている。また、精神科作業療法は病棟機能に付随した精神科リハビリの大きな柱ともなっている。

**【通院・在宅医療体制】**

外来患者は若年から高齢までの広い年齢層にまたがり、また疾患においても統合失調症はいうまでもなくうつ病や適応障害、認知症など幅広い。また、精神科訪問看護や精神科デイケア（大規模）の在宅支援も行っている。精神科救急・急性期や措置入院等への対応可能な専門機能を持った体制の指定も受けている。また、心神喪失者等医療観察法の指定通院医療機関でもあり、現在多職種チームでの診療、地域支援にあたっている。

**【地域生活支援体制】**

障害者自立支援法のもとでの障害福祉サービス事業所として次の三施設を病院付設の施設として運営しており、病院との連携を緊密にして障害者地域生活支援への総合的な体制作りを図っている。

ほっとホーム一歩社	自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業
ワークハウス一歩社	就労移行支援・就労継続支援B型事業
支援センター一歩社	指定相談支援事業所・地域活動支援センターI型

⑬ 施設名：下関病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：水木 寛
- ・指導責任者氏名：水木 寛
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 291 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	*	216

F1	*	44
F2	*	243
F3	*	70
F4 F50	*	32
F4 F7 F8 F9 F50	*	20
F6	*	32
その他	*	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴）

精神科単科病院であり、精神科救急病棟（いわゆるスーパー救急病棟）及び老年期病棟（急性期治療病棟）を中心として入院精神科医療全般について学ぶことができる。スーパー救急病棟では、統合失調症、気分障害、物質依存など精神科医として最低限知っておかなければならない疾患についてカバーしている。また、措置病床を有しており、措置入院の受け入れも行っている。老年期病棟では、主に認知症患者の治療にあたっており、家族への疾患勉強会も治療と並行して行っている。尚、平成24年度より外来部門を独立させ、下関病院付属地域診療クリニックが担っている。

併設施設等：応急指定病院、精神科救急病棟、精神科急性期治療病棟、精神科作業療法、精神科救急輪番、地域診療クリニック、老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム

⑭ 施設名：医療法人水の木会 下関病院付属地域診療クリニック

- ・施設形態：民間施設（下関病院のサテライトクリニック）
- ・院長名：末次 正知
- ・指導責任者氏名：末次 正知
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	668	*
F1	103	*
F2	687	*
F3	455	*
F4 F50	510	*
F4 F7 F8 F9 F50	61	*
F6	91	*
その他	0	*

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴）

下関病院のサテライトクリニックとして、外来部門を担っている。認知症、統合失調症、気分障害、神経症性障害といった疾患をまんべんなく診療でき、サテライトクリニックという特性上、入院治療を必要とする可能性が高い患者の受診もあり、様々な症例の研修が可能である。認知症や思春期・青年期の専門外来を行っており、精神科クリニックからの紹介患者も多い。また、常勤の臨床心理士による心理カウンセリングや心理検査を実施している。併設する施設として就労支援B型事業所があり、社会復帰に向けた取り組みを行っている。訪問看護やデイケアを通して、退院した患者さんの支援も行っている。

併設施設等：認知症疾患医療センター、精神科デイケア、重度認知症疾患デイケア、訪問看護

⑮ 施設名：長門一ノ宮病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：稲野 秀

- ・指導責任者氏名：稲野 秀
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 200 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	9	10
F1	7	1
F2	192	176
F3	101	30
F4 F50	77	3
F4 F7 F8 F9 F50	74	27
F6	3	0
その他	12	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

入院部門は急性期および慢性期の統合失調症や感情障害（F2、F3）などの内因性精神疾患を中心に、他に児童思春期の治療を行っており、常に数名の児童が在院している。将来的には、未成年患者への対応に特化した病棟の設置を目指している。病院の周囲が宅地化したことから、かなり以前に措置入院指定病床は全廃していたが、激しい症状を呈する症例にも対応するため、若干の病床設置を再度申請する予定である。外来部門については精神科疾患全般を診療しているが、認知症および嗜癪については、当事者が特に希望する場合を除き、他の専門病院に紹介している。デイケア、ショートケア、訪問看護、精神科作業療法などの精神科リハビリテーションも行っている。また、児童思春期専門外来では精神科では数少ない障害児リハビリテーションを開設しており、児童相談所や市教育委員会、こども発達センター、学校との連携も研修期間中に経験できる。

⑩ 施設名：大田病院

- ・施設形態：民間施設
- ・院長名：吉田 延
- ・指導責任者氏名：吉田 延
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（204）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	209	95
F1	20	9
F2	285	164
F3	177	21
F4 F50	151	8
F4 F7 F8 F9 F50	118	12
F6	5	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴）

204床を有する精神科単科病院であり、精神疾患の早期発見、早期治療にくわえ、一般の方々のストレス解消とメンタル・ヘルス（心身の健康増進と予防）および高齢者の認知症疾患にも力を入れているので幅広い疾患の研修が可能である。療養する方々に対しては、ゆとりある生活空間を備え、安心して療養ができる治療環境を整えており、また、デイケアや訪問看護、社会復帰促進、居宅生活支援等、幅広い支援活動を行なっている。

⑪ 施設名：九州大学病院

- ・施設形態：公的総合病院

- ・院長名：赤司 浩一
- ・指導責任者氏名：中尾 智博
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 65 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	165	11
F1	19	3
F2	321	83
F3	647	83
F4 F50	648	48
F4 F7 F8 F9 F50	1079	61
F6	4	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴）

1275床を有する大規模な病院であり、精神科も65床という大学病院としては最大規模の病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症 例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。また思春期症例、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。精神療法の習得にも力を注いでおり、認知行動療法、精神分析・精神力動、森田療法のカンファレンス、セミナーを定期的開催している。

## 2. 研修プログラム



## 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。年次毎の到達目標は以下の通りである。

### 到達目標

1 年目：基幹施設で指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害、神経症性障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法および精神療法の基本を学ぶ。特に面接によって情報を抽出し、診断に結びつけるとともに適切な治療計画を立て、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し精神科臨床勉強会に参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。また、精神保健福祉法の内容から始まり、各精神疾患の概念・治療から精神科リハビリテーションに至る、系統的で幅広くきめ細やかなクルズス（授業）が専門性を持つ複数の指導医により年間を通して行なわれ、精神科医としての知識習得および多方面から症例が検討できる能力が獲得できる。

2 年目：基幹施設で指導医の指導を受けつつ、自主的に面接技量を深め、診断と治療計画の能力を充実させる。薬物療法の技法を向上させる一方で、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。また、精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。リエゾン・コンサルテーション精神医療や児童・思春期精神障害の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。また、1年目の研修医の指導をすることにより、自分を鍛えることになる。

3 年目：連携施設で指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療、精神科救急医療、司法精神医療等を学ぶ。パーソナリティ障害や依存症患者の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

## 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

### 3) 個別項目について

#### ① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。リエゾン・コンサルテーション精神医療を通して身体科との連携を持つことによって、医師としての責任や社会性、倫理観などについて多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

#### ② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査する姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や医学雑誌への投稿を進める。

#### ③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例プレゼンテーション技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

#### ④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事し、その成果を学会や論文として表す。

### 4) ローテーションモデル

典型的には 1、2年目に研修基幹施設である山口大学医学部附属病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識と姿勢を身につける。3年目には山口県立こころの医療センターを含めて1ヶ所以上の研修連携施設をローテートす

る。研修連携施設では精神科救急医療、司法精神医療、精神科リハビリテーション・地域精神医療などを幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテーション順や期間については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

#### 5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照。

#### 4. プログラム管理体制について

##### ・プログラム管理委員会

- 委員長 医師：中川 伸
- 医師：中尾 智博
- 医師：松原 敏郎
- 医師：兼行 浩史
- 医師：水津 信之
- 医師：高橋 幹治
- 医師：稲野 秀
- 医師：橋本 隆
- 医師：大楽 良和
- 医師：若林 祐介
- 医師：國生 成司
- 医師：高松 範雄
- 医師：水木 寛
- 医師：末次 正知
- 医師：西村 理
- 医師：芳原 輝之
- 医師：中岡 清人
- 医師：大賀 哲夫
- 看護師：田中 志和
- 精神保健福祉士：嶋津 真理
- 精神保健福祉士：益満 伊都美

- ・プログラム統括責任者

中川 伸

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

## 5. 評価について

### 1) 評価体制

山口大学医学部附属病院：中川 伸

九州大学病院：中尾 智博

山口県立こころの医療センター：兼行 浩史

国立病院機構 関門医療センター：若林 祐介

片倉病院：高橋 幹治

泉原病院：大楽 良和

防府病院：水津 信之

長門一ノ宮病院：稲野 秀

高嶺病院：橋本 隆

三隅病院：國生 成司

重本病院：高松 範雄

下関病院：水木 寛

下関病院附属地域診療クリニック：末次 正知

小郡まきはら病院：西村 理

山口県立総合医療センター：芳原 輝之

柳井病院：中岡 清人

吉南病院：大賀 哲夫

大田病院：吉田 延

### 2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ 6 ヶ月

ごとに評価し、フィードバックする。

- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿/システムを用いる。

### 3)研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

山口大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)

#### ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を各年次の達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

#### ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を各年次の達成目標に従って各分野の形成的評価をおこなう。評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については改善のためのフィードバックを必ずおこない、記録して翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

### 1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹施設の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

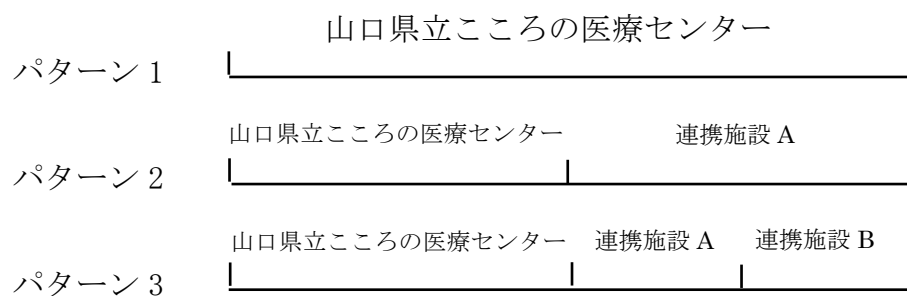
4) FD の計画・実施

年 1 回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

## 別紙1 ローテーションパターン

1, 2年目 研修基幹施設（山口大学医学部附属病院）

3年目 研修連携施設



2, 3年目のローテーションなどは、専攻医の希望を考慮し、柔軟に対応する。

別紙 2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

①山口大学医学部附属病院（専門研修基幹施設）

	月	火	水	木	金
8:30-11:00	外来業務 ▶ 初診予診 ▶ 陪席 ▶ リエゾン 行動制限カンファレンス (開放。閉鎖は火曜)	外来業務 ▶ 初診予診 ▶ 陪席 ▶ リエゾン 緩和カンファレンス	外来業務 ▶ リエゾン	外来業務 ▶ 初診予診 ▶ 陪席 ▶ リエゾン	外来業務 ▶ 初診予診 ▶ 陪席 ▶ リエゾン
11:00-12:30	病棟業務	病棟業務	病棟看護カンファレンス	病棟業務	病棟業務
13:30-14:30	多職種カンファレンス (開放)	多職種カンファレンス (閉鎖)	病棟業務		
14:30-16:00	病棟業務	病棟カンファレンス、教授回診			
16:00-17:00	リエゾンカンファレンス				
17:00-18:00	論文抄読会 症例検討会			ペインカンファレンス	
18:00-19:00	医局会				

※主治医とともに病棟のミニカンファレンスや電気けいれん療法に参加可能。

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。



別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

②国立病院機構 関門医療センター（専門研修連携施設）

曜日	時間	事項
月	終日	外来診療（再来・新患・リエゾン）
火	午前 午後	外来診療（再来・新患・リエゾン） 症例検討
水	終日	外来診療（再来・新患・リエゾン）
木	午前 午後	外来診療（再来・新患・リエゾン） 緩和ケアチームによるカンファレンス、病棟ラウンド
金	終日	外来診療（再来・新患・リエゾン）

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

③山口県立総合医療センター（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30~9:00				安全対策研修会、感染対策研修会等	
9:00~12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00~16:00	病棟業務 リエゾン・救急業務	病棟業務 リエゾン・救急業務	病棟業務 リエゾン・救急業務	病棟業務 リエゾン・救急業務	病棟業務 リエゾン・救急業務
16:00~17:00	症例検討会	外来カンファレンス		職場研修会	病棟・リエゾンカンファレンス

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

④山口県立こころの医療センター（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30	朝礼(8:50)		朝礼(8:50)		朝礼(8:50)
9:00	オリエンテーション	外来診察、予診 回診	外来	外来	外来
12:00	病棟業務	デイケア、OT 講義	病棟業務 講義	病棟業務 講義	病棟業務 講義
16:00	講義		講義		講義
17:00	事例検討会 (18:00~19:00)	入退院カンファレンス	(18:00~20:00 アルコール依存症治療勉強会)		

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑤泉原病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)
13:30～14:30	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)
14:30～15:00	病棟業務	症例検討 カンファ	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00～17:00	病棟業務 (診察検査)	病棟業務 (診察)	病棟業務 (診察検査)	病棟業務 (診察)	病棟業務 (診察検査)

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑥防府病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30～9:00				安全対策研修会、感染対策研修会等	
9:00～12:00	外来業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00～16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00～16:30	症例検討会	行動制限最小化委員会		職場研修会	外来カンファレンス
16:30～17:00					

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑦恵愛会 柳井病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金	土
9：00～ 12：00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13：00～16： 00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	家族教室
16：00～16： 30	症例検討 会	行動制限 最小化委 員会		医局会議 薬事審議会	安全対策・ 感染対策 委員会	
16：30～17： 00						
17：00～	救急輪番 日					第二土曜日 救急輪番日

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑧小郡まきはら病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
9:00~9:30	院内申し送り会議	院内申し送り会議	院内申し送り会議		院内申し送り会議
9:00~12:00	病棟業務 または 生活訓練 施設実習	外来業務	病棟業務 または デイケア実習	病棟業務	病棟業務 または 外来業務
12:00~13:00				連携会議	
13:00~17:00	病棟業務 または 生活訓練 施設実習	外来業務	病棟業務 または デイケア実習	病棟業務 または 訪問看護実習	病棟業務 または フィオーレ 実習

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑨片倉病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:40- 9:00	医局会議	医局会議	医局会議	医局会議	医局会議
午前	病棟業務	病棟業務	外来業務 (初診・再 来)	病棟業務	病棟業務
午後	病棟業務	デイナー ケア診察	外来業務 (初診・再 来)	デイケア診察	病棟業務 (隔離・拘束 診察)



別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑩吉南病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:45~9:00	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング
9:00~12:00	外来業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00~16:00	病棟業務	病棟業務	院内研修	病棟業務	病棟業務
16:00~16:30	症例検討会	退院カンファレンス	病棟業務	入院カンファレンス	外来カンファレンス
16:30~17:00		病棟業務			

別紙 2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

①高嶺病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:00~12:00	集団プログラム 外来業務	集団プログラム 外来業務	回診	集団プログラム 外来業務	集団プログラム 外来業務
13:00~17:15	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務	外来業務 病棟業務 画像カンファレンス	外来業務 病棟業務
17:15~			外来（月2回） 集団プログラム（月2回）		院内勉強会（月1回）

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑫三隅病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:00	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り
8:30	外来業務 (新患・再 来)	外来業務 (新患・再 来)	外来業務 (新患・再 来)	デイケア業務	デイケア業務
13:00	勉強会	読書会	説明会	勉強会	読書会
14:00	1 病棟カンファ レンス	病棟業務	3 病棟カンファ レンス	病棟業務	認知症治療病 棟カンファレ ンス
15:00	病棟業務		病棟業務		病棟業務

別紙 2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑬医療法人 光の会 重本病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30~9:00					
9:00~12:00	回診 外来業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00~16:00	病棟業務	病棟業務 デイケア業務	病棟業務	病棟業務	入退院カンファレンス  患者行動制限 最小化委員会 (第4金曜日)  病棟業務
16:00~16:30			症例検討会 (第2水曜日) 薬事会議(第2水曜日)	断酒会 院内感染対策 委員会(第2木曜日)	
16:30~17:00			医療安全管理 委員会(第3水曜日)  人権擁護・倫理 委員会(第3水曜日)  障害福祉サービス 事業所スタッフ会議 (月1回)		

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑭ 下関病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30～9:00			自己学習日		
9:00～12:00	病棟業務	病棟業務		病棟業務	病棟業務
13:00～16:00	病棟業務	外来業務		病棟業務	病棟業務
16:00～16:30	感染対策研修会等	行動制限最小化委員会		安全対策研修会	症例検討会
16:30～17:00		外来カンファレンス			

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑮ 下関病院付属地域診療クリニック（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30~9:00			自己学習日		
9:00~12:00	外来業務	外来業務		外来業務	外来業務
13:00~16:00	外来業務	外来業務		外来業務	外来業務
16:00~17:00		外来カンファレンス			症例検討会

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑩長門一ノ宮病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金	土
午前	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	院長回診 外来業務	専門外来 （児童思春 期・発達障 害） 病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	入退院カン ファレンス	病棟業務	病棟業務	
			症例検討会			
			病床管理委 員会			
			病棟業務			
その他	デイケア・シ ョートケア （全日）	デイケア・シ ョートケア （全日）	デイケア・シ ョートケア （全日）	デイケア・シ ョートケア （全日）	デイケア・シ ョートケア （全日）	障害児（者） リハビリテ ーション（全 日）
	障害児（者） リハビリテ ーション（随 時）	障害児（者） リハビリテ ーション（随 時）	障害児（者） リハビリテ ーション（随 時）	障害児（者） リハビリテ ーション（随 時）	障害児（者） リハビリテ ーション（随 時）	訪問看護（全 日）
	SST（午前）	訪問看護（全 日）	訪問看護（全 日）		SST（午前）	SST（午前）
			行動制限最 小化委員会 （隔週午後）			
			SST（午前）			

別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑰大田病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)	外来業務 (予診陪席)
13:30～14:30	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)	外来業務 (陪席)
14:30～15:00	病棟業務	症例検討 カンファ	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00～17:00	病棟業務 (診察検査)	病棟業務 (診察)	病棟業務 (診察検査)	病棟業務 (診察)	病棟業務 (診察検査)



別紙2 週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

⑱九州大学病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8:30-9:00		病棟カンファ 抄読会			
9:00-12:00	病棟医長 回診 病 棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	教授回診	病棟業務
16:00-18:00	チームカ ンファ	病棟業務	論文輪読 会	医局会	病棟業務
18:00-20:00	行動療法 カンファ		精神分析 セミナー	精神医学 セミナー (不定 期)	

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

①山口大学医学部附属病院（専門研修基幹施設）

4月	専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 オリエンテーション 指導医によるクルズ 山口県脳とこころの研究会参加
5月	指導医によるクルズ
6月	日本精神神経学会総会参加・演題発表 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加・発表
7月	中国地区6大学精神科研修会参加 日本うつ病学会参加（任意）
8月	日本精神科診断学会参加（任意） 国立精神神経研究センター精神保健に関する技術研修参加（任意） 山口県脳とこころの研究会参加
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意） 日本児童青年精神医学会参加（任意）
10月	専攻医研修中間報告書提出 日本総合病院精神医学会参加（任意）
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表 山口県脳とこころの研究会参加
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加・発表
1月	
2月	山口県神経精神科医会研修会参加 山口県脳とこころの研究会参加
3月	専攻医研修報告書の作成 研修プログラム評価報告書の作成 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加・発表 日本統合失調学会参加（任意）

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

②国立病院機構 関門医療センター（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	中国地区6大学精神科研修会参加
8月	緩和ケア研修会参加
9月	日本生物学的精神医学会参加
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

③山口県立総合医療センター（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション	
5月	院内感染対策研修参加	
6月	医療安全対策研修参加 日本精神神経学会学術総会参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
7月		
8月		
9月		9月～11月 薬物療法勉強会参加
10月	地方精神神経学会参加	
11月		
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
1月		
2月	精神保健福祉法研修参加	
3月	研修プログラム評価報告書の作成	

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

④山口県立こころの医療センター（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	
8月	全国自治体病院協議会精神科特別部会研修会参加
9月	
10月	高次脳機能障害研修会参加
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	
2月	山口県神経精神科医会研修会参加
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑤泉原病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
	日本老年精神医学会学術総会参加（任意）
	日本心身医学会学術総会参加（任意）
	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	日本睡眠学会参加（任意）
8月	広島精神神経学会参加（任意）
9月	山口県精神科病院協会研修会参加
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表
	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	日本心身医学会中国・四国地方会参加
	広島精神神経学会参加（任意）
	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	日本心身医学会九州地方会参加
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑥防府病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加(任意) 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表
12月	院内研究発表会 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑦恵愛会 柳井病院（専門研修連携施設）

4月	新人職員オリエンテーション 地域移行勉強会参加
5月	院内感染対策研修参加
6月	医療安全対策研修参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	
8月	患者行事（納涼祭）参加 褥瘡予防対策研修参加
9月	行動制限最小化研修参加
10月	地域移行検討会参加
11月	医療観察法研修参加
12月	患者行事（クリスマス会）参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	医療観察法ケア会議参加
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 法人内研究発表会 参加



別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑧小郡まきはら病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション	随時 附属施設（就労支援事業所、生活訓練、DC）、訪問看護実習  4月～2月 病棟担当
5月	医療安全対策研修参加	
6月	院内感染対策研修参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
7月	精神保健福祉法研修参加 病棟担当	
8月	精神科の薬について研修参加	
9月	接遇研修参加	
10月	院内感染対策研修参加	
11月	医療安全（防災）研修参加	
12月	医療安全研修参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
1月	精神保健福祉法研修参加	
2月	個人情報研修参加	
3月	医療安全（暴力対応）研修参加 研修プログラム評価報告書の作成	

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑨片倉病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション	
5月	院内感染対策研修参加	
6月	医療安全対策研修参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
7月	病棟担当	
8月		
9月	行動制限最小化研修参加	9月～11月 薬物療法勉強会参加
10月	地域移行検討会参加	
11月	医療観察法研修参加	
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
1月	医療観察法ケア会議参加	
2月	精神保健福祉法研修参加	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 法規制対応研修参加	

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑩吉南病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション	
5月	院内感染対策研修参加	
6月	接遇研修、救急公衆参加 病棟担当 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
7月	医療安全対策研修参加	
8月	院内精神医療研修会、CVPPP 研修参加	
9月	人権倫理・行動制限最小化研修参加	9月～11月 薬物療法勉強会参加
10月	患者支援・地域移行検討会参加	
11月	院内感染対策研修参加 医療観察法研修参加	
12月	在宅支援事業見学 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加	
1月	医療安全対策研修参加	
2月	人権倫理・行動制限最小化、精神保健福祉法研修参加	
3月	研修プログラム評価報告書の作成、看護部研究発表会参加 法規制対応研修参加	

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

①高嶺病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション 初期研修
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	
2月	院内勉強会発表
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑫三隅病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション 山口県脳とこころの研究会参加
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	
8月	山口県脳とこころの研究会参加
9月	山口県精神科病院協会研修会参加・演題発表
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加 山口県脳とこころの研究会参加
12月	臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	かかりつけ医うつ病研修会講演発表
2月	山口県脳とこころの研究会参加
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑬医療法人 光の会 重本病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	行動制限最小化研修会 医療安全研修会
6月	日本精神神経学会総会 院内感染予防研修会 褥瘡対策研修会
7月	医療安全研修会 人権擁護研修会
8月	医療安全研修会 労働衛生研修会
9月	日本精神神経学会地方会 重本病院チーム医療研修会 医療安全研修会
10月	医療安全研修会
11月	診療研修会 医療安全研修会 行動制限研修会
12月	院内感染研修会
1月	診療研修会
2月	精神科医会 精神保健福祉法研修参加
3月	研修プログラム評価報告書の作成 医療安全研修会 褥瘡対策研修会

### 別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

#### 年間スケジュール

#### ⑭ 下関病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	病院学術講演会
6月	日本精神神経学会総会
7月	
8月	院内学術研修会（学会予行演習）
9月	
10月	日本精神科医学会学術大会
11月	中国・四国精神神経学会
12月	
1月	
2月	病院学術講演会
3月	

### 別紙3 年間研修計画（連携）

#### 年間スケジュール

#### ⑮ 下関病院付属地域診療クリニック（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	病院学術講演会
6月	日本精神神経学会総会
7月	
8月	院内学術研修会（学会予行演習）
9月	
10月	日本精神科医学会学術大会
11月	中国・四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	病院学術講演会
3月	



別紙 3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑩長門一ノ宮病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション 山口 ADHD 研究会参加(任意)
5月	日本トラウマティックストレス学会参加(任意)
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本小児精神神経学会総会参加(任意) 日本老年医学会参加(任意) 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	日本うつ病学会(任意) S S T 経験交流ワークショップ参加(任意) 下関小児発達研究会参加(任意)
8月	日本自閉症スペクトラム学会研究大会参加(任意)
9月	
10月	日本精神科医学会学術大会参加(任意) 日本神経精神薬理学会参加(任意) 児童青年期精神医学会総会参加(任意) 下関市子どもの心の研修会参加(任意)
11月	中国・四国精神神経学会参加 日本 LD 学会参加(任意)
12月	S S T 普及協会学術集会参加(任意) 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	
2月	県精神科医会研修会参加(任意) 日本 ADHD 学会総会参加(任意) 下関小児発達研究会参加(任意) 日本不安症学会参加(任意)
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑰大田病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会学術総会参加（任意） 日本心身医学会学術総会参加（任意） 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
7月	日本睡眠学会参加（任意） 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
8月	広島精神神経学会参加（任意）
9月	山口県精神科病院協会研修会参加
10月	
11月	中国・四国精神神経学会参加・演題発表 九州精神神経学会参加・演題発表
12月	日本心身医学会中国・四国地方会参加 広島精神神経学会参加（任意） 臨床学術研修会（オープンカンファ）参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 3 年間研修計画（基幹・連携）

年間スケジュール

⑱九州大学病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 研修医グラウンドラウンド（毎月開催）
5月	教室研究会参加 福岡精神科集談会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	九州地区 11 大学合同研修会
9月	福岡精神科集談会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 教室研究会参加 日本児童青年医学会参加（任意） 日本認知・行動療法学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	福岡精神科集談会参加
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会（任意）